

## ガバナー就任の挨拶

第266地区ガバナー

伊瀬芳吉

輝かしい歴史と伝統のある当266地区のガバナーエレクトとして、この地区協議会において伊藤直前ガバナーより紹介を受け、共に奉仕する我々の年度の開幕の挨拶を申しあげ

ることは、私にとって無上の光栄であります。顧りみますと昨年3月の豊中における地区年次大会においてガバナーにノミネートされ、以来、伊藤直前ガバナーを始め先輩パストガバナーの皆さんから温かいご指導を頂きながら、物心の準備を経て、去る5月31日から6月7日まで、米国フロリダ州のボカラトーンにおいて行われましたR.I.国際協議会に参加することを許され、密度の高いしかもハードスケジュールの研修を、全世界より集まった378名のガバナーノミニと共に受講し、いかにしてガバナーの重責に応えるかについての手段と精神を与えられました。この間、本年3月には不覚にも病氣静養を余儀なくされるハプニングで、皆さんに大変な心配をおかけして恐縮に存じます。大事をとってローマの国際大会への出席を中止させて頂きましたが、伊藤直前ガバナーのご配慮でガバナーにエレクトされた連絡をして頂いた次第であります。これは、ひとえに当地区全ロータリアンのご高配の賜であり、ここに改めてお礼を申しあげると共に感謝申しあげるものであります。

同時に、来るロータリー年度は皆様のご協力の下に奉仕の実をあげることが出来ますように祈念いたしておりますので、従来にも増

して皆様方の絶大なご援助を衷心お願い申し上げます、就任の挨拶と致します。

さて、全世界152か国、18,000クラブに属する850,000人のロータリアンは、ロータリーの綱領に則り自主的に運営されるべきものでありますが、何と申してもR.I.会長の指導力がその中核であることは皆様ご承知の通りであります。その意味で、我々の年度の会長のジェームス L. ボーマー Jr. のプログラムやメッセージを正しく理解して頂きたいと存じます。各クラブ会長さん宛に届けられたメッセージと図柄を注視して頂きたい。

本年度の図柄はTorch（たいまつ）であります。

ご承知のように、我々の年度はロータリー75周年度にあたります。長い伝統に輝く奉仕の灯を、我々の手で更に大きく、深く、世界の隅々まで道を照らそうではありませんか。

そして次の四つの事柄に、具体的実践をもって応えようではありませんか。

**あなたのクラブで……**クラブのプログラムや活動にもっと身を入れるようにしましょう。新しい会員のために道を照らしましょう。お互いの親しみと思いやりを通じて、ロータリーが数においても、力においても、成長するように努力しましょう。

**あなたの職場で……**あなたの職場における良心的行動についての自覚と関心をさらに高めるようにつとめましょう。あらゆる有用な職業の持つ尊さに対し、またその仕事を通じ

て世界中の誰もがもつ重要さに対し、さらに深い敬意をはらうようにしましょう。若い人々を導いて、価値ある職業人にならせましょう。

**あなたの地域社会で……**地域社会の不和を醸している問題にスポットライトをあて、解決の緒が見つかるように、そしてお互いに知らない人どうしが隣人となり、隣人が友人となるようにしましょう。若者にも老人にも、またからだの不自由な人にも、恵まれない人

にも、りっぱな、世のためになる生活をする力が自分たちにあるのだということを自覚させるようにしましょう。

**世界の至るところで……**誤解と苦難を追放しましょう——さらに高度の友好と理解と平和を追求しながら——保健、飢餓追放および人間性尊重のプログラム、世界社会奉仕、ロータリー財団、組み合わせ地区およびクラブ・プログラム、および人々の交流を実践しながら。

## 伊藤恭一直前ガバナーへの感謝

ガバナー 伊瀬芳吉

伊藤恭一直前ガバナーが、われわれ第266地区のリーダーとして、伝統あるロータリー活動に、その卓抜した識見、指導力、行動力をもって、新たな発展と飛躍をもたらされたことは、われわれロータリアンのみならず、世の広く知るところであり、ここに深甚の謝意を表する次第であります。また、これまでに賜りましたご指導ご教示を、従前にも増して、よろしく願います次第であります。

私がガバナーにノミネートされてからは、伊藤さんはガバナーとしての多忙な公務の間に、何くれとなくご指導をいただき、そのご配慮の深さには、ただ頭のさがる思いであり、筆舌に尽し得ないものがありました。

ところで、本年3月、ノミニエ事務所を開設した直後、私は思いもかけず入院・手術といった事態に見舞われました。その間、伊藤さんには、今後の事務に支障なきよう万全のご配慮とお力添えを賜り、大変幸せに存じました。立派なお人柄で心やすくざっくばらんに何でも相談をさせていただきました。入院

中には、何回となくお見舞をいただきました。退院後、元気になってから打開けられて知ったのでありますが、私の病気の最悪時を予想して、医師にもいろいろとご相談をされていたとのことで、全くご心配のかけ通しであったと恐縮に存じております。病気を通じての暖かいお心遣いには、私終生忘れることができません。ただただ感謝の気持で一杯であります。

今は、伊藤さんの、後継者に示されたこの暖かいお心遣い、ご指導ご教示にいかにお答えしていくか、それのみを念じ、かつ行動として、形あるものになりたいと考えている次第であります。とはいえ、この一年間のガバナーという重責、これを私なりに果そうとは決意してはいますが、重ねて従前以上のご指導ご援助を賜りますよう、また私に限らず、第266地区ロータリアンに、大所高所からのご指導を賜りますよう、心からお願ひ申しあげ、感謝のことばといたします。